

# ちょっといい話

## ～念々に捨てざるもの～

法然上人が求められた「念々に捨てざるもの」とは一体何であったのでしょうか。それは勿論、〔阿弥陀様の御名を称える事、日課称名念佛です。人間が極樂に行く為には念佛を称える事が正しい勤め（正定の業）である事を教示されたのが阿弥陀様自身であり、阿弥陀様の願いであるからです。〕と、法然上人はこの一文から淨土門をお開きになられました。念とは忘れる事無く思い続けて守り実行する事ですから。法然上人は忘れずに毎日念佛を称えられました。極樂往生、拔苦与樂を願わない上人はいません。有り難い事です。では、『我々は常に、何を修め、何を実践すれば善いのでしょうか？』現代社会の生活環境を想う時、私は各家庭に於いて、法然上人や各祖師の様に、一念発起して守るべき法を培い、家庭生活をより良く営む為の家訓として常に念じ実践し続けなければいけない。「真髓の無い、信仰の無い」家庭は良くないと 思います。道詠に「いつまでもあると思うな 親と金 ないと思うな 病災難」。人生にマツタはありません。決め事の無い家庭は安心して共に暮らせる社会に役立つ憲法を早く作るべきです。古くは聖徳太子の「十七条の憲法」、「家康の遺訓」、「美智子妃殿下の徳仁親王（なるヒトチャン憲法）」等々それぞれの家庭には必ず思いを抱かず、忘れてはいけない憲法があっしゃるべきです。それは社会に共存する為のマナーでなくてはいけません。例えば、「正直であれ」、「おはよう、おやすみ、と言おう」、「親は子を、子は親を信頼する」、「命を大切に」、「人の嫌がる事をするな」、「社会のルールを守ろう」等々色々あると思います。各家庭の存在が社会に及ぼす影響には大なるものがあります。社会の基礎となる家庭生活の営みは特に大切です。何方かの道詠に「欲深き 人の心と 降る雪は 積もるにつけて 道見えぬなり」と。 善入院油掛地藏尊